



学校だより

雑賀崎小学校
12月号
令和6年度
2024年度

○ 忘れ物のした時の対応…（ネットニュースより）

まいどなニュース トップ>子育て>小1の初参観日「あっ教科書を忘れている子が」→注意されるのではとハラハラしたら…先生の対応 6/27(木)配信 （一部抜粋 途中も省略）

学校での忘れものは、まさにあるある…そんなときの先生の対応によって、子どもにも多大なる影響があるのではないのでしょうか。7歳、6歳、1歳のお子さんを育てている毛糸蛾（もす）さんが、初めての授業参観で目撃したエピソードに大きな反響がありました。



教室の三方向をぐるりと囲むくらいの保護者が集まる中、教科書をなかなか出せない子がいることに気づいた毛糸蛾（もす）さん。すると先生がいち早く気づき、みんながまだゴトゴトしてる間に小声で「どうしたの?」と声かけ。

「ない…ママが入れてくれなかった」と答えると「ん。自分で用意するんだよ」と先生はサッと自分の教科書を渡し、すぐに予備の教科書を用意して授業をスタートされたそうです。

「周りが気づく前に気付く細やかさ、子供に恥をかかせないフォロー…全部がスマートで、いきなり鼻ツンうるうるしてしまった。“いい機会だからみんなにも注意喚起”みたいなのが普通だと思ってたから…子供達にとっていい時代でありがたいよね。すごく癒されました」と毛糸蛾さん。



「最初の担任、めっちゃ大切…」

「本当のプロの教育者の話を聞けて嬉しい」

「小学生ぐらいに味わった恥ずかしい経験とかって結構ずっと居座るよね。でも配慮だけじゃなくちゃんと注意してるのが尚いいなと思った」

「子どもの尊厳とかプライドを守ってくれる先生ほんまかっこいい」

「参観日だもんね…落ち着いた指導ができる良い教師」

「こうやって対応した方がこの生徒さんも改めてくれそう」

と、このエピソードに多くの方が感動。472万件以上表示されています。

「子育てを通じて自分の穴ポコが埋まった体験でしたので、共感いただけて嬉しかったです。若い先生なので、このまま優しいお兄さん先生を極めていただきたいと思います」という毛糸蛾さんにお話を聞きました。

教科書を忘れた子、その後の様子は…

——教科書を渡されたお子さんはその後どのような様子で？

ホッとした様子で、すぐに何もなかったように授業を楽しんでいる様子でした。初めての授業参観でみんな興奮してキラキラしているので、他の子は誰も気づいていませんでしたね。気づいて手に汗握っていた私は拍子抜けしました。

——参観日後の先生の印象は？

他の用事で電話をいただいた際に、この出来事に感銘を受けたことをお伝えしたところ、「恥ずかしい思いや悔しい思いをさせても忘れ物は無くならないと思うんですね」と穏やかにおっしゃっていました。子どもを個人として尊重する姿勢が自然に備わり、子どもの目線がわかる先生なのだと思います。私が願うまでもないとは思いますが、誰にも真似できないこの持ち味を大切にしていきたい…と思いました。



以上、ネットニュースより。

○ 一人一人の個性を尊重して…

このような話を読むと、私たち教職員も「子どもの気持ちに寄り添った声かけができているのだろうか。」と振り返ります。

私たちも、うまく声かけできた時もありますが、そうでない時もあります。そんな時は、放課後の職員室で「こんな方法もあるよ。」「こうしてみてはどうかな。」などと、みんなで良い方法を日々模索しています。

個性は一人一人同じではないので、その子にとって、どんな力をつけさせたいかで**声のかけ方**（**声をかけすぎない・声をかけない。**）も変わります。教職員によって、言っていることがバラバラだと、その子も混乱してしまいますが、雑賀崎では教職員が同じ方向を向いて声掛けをしやすい環境です。

保護者の方々には、雑賀崎の子どもたちに声かけしていただき、ありがとうございます。

○ では、忘れ物をなくすには…

この話は、とても難しいです…。

視覚的に（連絡帳等で）確認したり、日々のルーティーン（時間割を合わすタイミングを毎日同じにするなど）の中で、身につけていったりしていくことだと思います。

低学年のうちは、毎日同じタイミングで保護者が声かけ（支援）をしながら、児童本人に準備させてほしいものです。

時間割を合わす時刻（例えば毎日 19:00）にタイマーを鳴らすのも方法だと思います。

スーパーのトイレに、「忘れ物はないですか？」と携帯のイラストが貼ってあったりするのを真似して、ランドセルの近くにイラストと一緒に注意書きを掲示しておくのも、忘れ物を減らす1つの工夫だと思います。

それ以外の方法もあるかと思いますが、学校と保護者、または保護者同士で、いろんな方法を共有し、その子にあった方法を見つけ、子どもが“自分でする習慣”にあり、子どもの自立の手助けをお願いします。

規則正しい生活を送り、その中で忘れ物をしないルーティーンを獲得してほしいものです。



○ 近くにいるので、見えにくい…



子どもたちは、日々成長しています。先日の学習発表会でも、練習を始めたときは、なかなか集中して練習できなかったこともありましたが、日を追うごとに、それぞれの目標に向かって、取り組みました。

今年は、幼稚園と合同での舞台発表だったため、1年生であっても後輩に見られるというシチュエーションで、かなり緊張したことだと思います。もちろん、小学校に入って初めての学習発表会なので、たくさんの保護者の方の前で舞台に立つという経験自体も緊張することだと思います。この緊張感を感じることも、これから待ち受けるプレッシャーに打ち勝つ力となると信じています。様々な経験を積むことによって、子どもたちは成長しています。

ご家庭では、目まぐるしい時間を過ごしていることと思いますが、ふと、数か月前（例えば、1学期）と比べると、できるようになったことも多いのではないのでしょうか。学習内容だけでなく、気配りや言葉使いなど、目には見えにくい部分の力もついてきています。

保護者の方は、子どもの**1番近くにいる存在なので、見えにくいこともある**かと思いますが、2学期末の懇談会等でも、お話できたらと思います。

反抗すること（反抗期）も成長の1つです。子どもから大人へ成長する過程で誰もが通るものです。ただ、子育てに困ったことあれば、学校でも相談に乗りますし、他の相談場所の案内等もできるかと思います。

【SC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）の利用も、ご相談ください。】

これからもずっと、近くで見守り続けてください。



■ 来年度に向けて…

今年も、幼小一貫教育の取り組みを進めているところです。幼小での活動の機会を増やしたりしていきたいと考えています。

今年は、幼稚園からポップコーンパーティーの招待を受けるなど、園児のみんなも、小学生と一緒に活動したいと思っています。

幼稚園のうちに、小学校のことを知り、経験することで、「小1ギャップ」と言われることも防ぐことができます。

また、1年生であっても、「小学校で一番下の学年だから、何でも高学年がしてくれる。」という環境にならず、園児のことを考える立場になって、幼稚園での成長の続きを、後退することなく進めることができます。

小学校と幼稚園の教職員が、「子どもたちのためにより良い環境を」と考えて取り組んでいきますので、今後とも、保護者の方や地域の方に協力してもらいながら、学校運営を進めて参ります。



■ 教育講演会の出席ありがとうございました

第2部では、“カフェイン”の取りすぎに注意する話をさせていただきました。また、市販薬の乱用【OD(オーバードーズ)】や大麻、タバコについても話させていただきました。

今の時代、いろんな情報はネットから手に入れることができます。ただ、講演の時に話しましたが、ネットの情報は正しいことか間違っているのかはわからないこともあります。いろいろ調べてその内容の正誤を判断しなければなりませんし、何より、誰かに迷惑をかけてはいけません。



子どもたちは、たくさんの情報を判断し、上手に利用することが求められる時代になります。情報機器(PC・タブレット・スマホ等)を使いこなすことは大切なことになるのですが、使いすぎないように**自律できる力**は、つけさせなければなりません。また、ルールやマナーなど、情報モラルと言われる考え方が大切になってきます。「知っているだけで、守れない。」のでは意味がありません。正しく(迷惑をかけないように)実行できる力も欲しいものです。

学校のタブレットはある程度の制限がかかっていますが、家庭で購入した情報機器(スマホ・タブレット・ゲーム機等を含む)は、制限がかかっているでしょうか。子どものために購入等をする場合のスマホは、フィルタリングをかけるようにする条例が和歌山県にはあります。しかし、販売店等では、条例のことを話さずに、「フィルタリングはどうしますか?」「フィルタリングはかけないでおいの方がいいですか?」と声をかけ、意思の確認をしたことにしていると聞いたことがあります。

また、最近では、**子ども同士の盗撮**が、かなり増えてきているようです。

子どもが使う情報機器については、家庭でルールを作って守らせてください。それが、子どもを守ることになります。

